

平成29年度学生と学長との懇談会
 本学に対する学部学生からの意見・質問への回答

1 大学教育（研究，カリキュラム・授業内容等）について		回答
1 総合科学部	学生一人一人と向き合う制度をつくる	クラス担任や指導教員制度により，きめ細やかな学修支援や研究指導を行っています。
2 総合科学部	学生に応じたカリキュラムの編成	本学部のカリキュラムは，学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき編成しており，コース毎に策定・公表しています。総合科学部社会総合科学科では，専門分野の基礎的・専門的知識やスキルの修得と，広く社会から求められる汎用性の高い総合性の獲得に重きを置くという，二つの支柱からなるカリキュラムを編成しています。
3 総合科学部	<p>私は，地域創生コースのカリキュラムとは別に教職課程をとっていました。就職先も第一希望である徳島県の中学社会科教員であるので，頑張っってよかったと思っています。徳島大学は教育学部がないので，教職に関する情報は自力で探し，勉強も独学でした。しかし，面接や模擬授業などは，教員養成講座で坂田先生や中川先生が指導をしてくださりました。</p> <p>教職課程では，ボランティアの経験が重要であると言われ続けてきました。そのため，私も教育関係，イベントの運営，清掃活動などのボランティアに積極的に参加しました。しかし，実際面接試験や今後の教員生活で役立つことは，ボランティアではなく，地域創生コースでの活動だと思います。私は大学3年の夏に宮城県女川町に行きました。そこでは，徳島県の「トモニSUNSUNマーケット」で出品する商品づくりのために住み込みで勉強させてもらいました。元々モノづくりに興味があったので，手作り石けん工房のある女川町には即決で行くことを決め，技術を学び，徳島に戻ってからは商品づくりと販売を行ってきました。</p> <p>この経験は私以外誰もしていないことだという自信がありましたし，地域創生コースでしかできない経験だとも思いました。そのため，履歴書や面接ではアピールをし，結果合格に繋がったのではないかと考えております。</p>	<p>本学では，教職教育センターを設置し，教員を志望する学生の支援を行っています。教職課程でわからないことがあれば教職教育センターにご相談ください。</p> <p>また，ボランティア活動にあたっては，本学と徳島県が連携して次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資することを目的に平成28年度から「ボランティアパスポート制度」を実施していますのでご活用ください。</p> <p>本学では，学生が地域に出て学ぶことは，大事なことと考えています，就職活動の体験の意見を頂き，有り難うございます。大学としても社会や学生の要望を把握し，充実した教育及び就職支援を提供していきます。</p>
4 歯学部	専門分野に縛られることなく，幅広い視野を育むように構成されており，総じて大変充実したカリキュラムかと思えます。	今後も社会や学生の要望を把握し，充実した教育を提供していきます。

5 薬学部	<p>専門英語に関する講義を増やしてほしい。3年後期の研究室配属後は英語の文献を読むことが多く、さらに卒業後の進路先には専門性の高い英語を必須とした職業もあるため、(選択科目でもいいので)低学年の段階から専門英語に触れる機会を設けてほしい。</p>	<p>平成30年度創製薬科学科入学生には英語講義を追加しています。現在の在学生のカリキュラムに追加することは難しいが、クラス及び研究室レベルで、希望する学生向けに専門英語の指導が可能か検討します。</p>
6 工学部	<p>大学教育におけるカリキュラムについて、授業と授業の空きコマが極力少なくなるようにカリキュラムをほしいです。もし空きコマができてしまうならば、図書館などで授業の課題やレポートに取り組むことができるが中間試験や期末試験前になると図書館やK棟の自習スペースの席がなくなるので中間試験や期末試験前でも学生が十分に学習可能なスペースを確保してほしいです。</p> <p>大学教育における授業内容について、評価方法が異なるが期末試験のみで評価される授業があり、またその試験において部分点のない試験を設けている授業がいくつかある。そして試験で60点が無ければ単位を落とす授業がある。私の意見として授業の理解度を試験で判断するのは良い方法だと思うが、1回きりの試験であると計算ミスや変な焦りで単位を落とす場合も考えられるので毎週授業に出席し、授業内容を理解するためのレポート課題を課し、その課題レポートも最終評価に入れるべきだと思います。</p>	<p>空きコマが出ないように工夫していますが、学科共通科目においては学科間の調整、また使用できる教室を学部全体で調整した上で、時間割を作成しているため、どうしても空きが生じることもあります。</p> <p>学習スペースの確保には尽力しておりますが、限られた敷地内のため試験前はスペースが不足することがあります。情報センター情報処理室や共通講義棟CALL教室も、授業時間外でしたらパソコンを使用して学習することができますのでご利用ください。</p> <p>成績の評価は、それぞれの授業の目標に応じて達成の度合いを測る様々な方法をとっています。評価方法に改善すべき点があると考えられる場合は、授業改善のためのアンケートで意見を述べるすることができます。実際にアンケートの建設的な意見を取り入れて、総合評価を採用している授業の割合は高くなっています。なお、成績評価に疑義がある場合は申し立てができますので、履修の手引きを参照してください。</p>
7 理工学部	<p>グループワークでの各メンバーの貢献度に差異があることに違和感を覚えた。つまりグループ課題に対し、意欲的に参加する人と、その人に頼ってほとんど参加しない人が同じ点数で評価されるのは不公平だということだ。いくら指摘しても直らないのなら、そういう人に対して減点などの措置をとってほしい。</p> <p>徳島大学院と県外の大学院ではどのような違いがあり、就職にも影響があるのかが気になる。</p>	<p>グループの各メンバーには様々な得意・不得意分野があり、それらを上手くまとめて良い成果を得ることがグループワークの醍醐味です。各メンバーの貢献度を測る客観的な方法があれば採用すべきですが、実際には貢献度に対する意見の相違からグループ内の不和につながりかねません。</p> <p>今回の意見については、学部内で共有し、公平な評価について検討したいと思います。</p> <p>大学院のHPやパンフレット等から研究内容や就職先については、おおまかな情報は手に入れることができます。詳しい内容は各コース・各研究室によって事情が異なりますので、質問したい内容を整理した上でオフィスアワー等を利用して教員に尋ねてください。</p>
8 生物資源産学部	<p>時間割の組み方を改善していただきたい。時間割編成の作業は複雑で、偏りを完全になくすことは不可能であることは承知している。しかし、学年や前期と後期で科目数のバランスに大きな偏りが生じることや、実習が他の講義や学校行事と重なることはできるだけ避けていただきたい。</p>	<p>1年生の時間割は密であり、2年生はコースにもよりますが1年生よりゆとりのある編成となっています。種々の要因で大きく変更することが困難ですが、少しずつ改善していく予定です。また、次年度は実習が他の講義や学校行事と重ならないようにしています。</p>